



昭和三十二年二月廿二日

第十七題改

ムイタ労動

ス

さきに本欄で指摘した如く  
平市公會堂が市役所に占領さ  
されてゐる爲に生ずる市民の  
損失はばく大なものがある  
多くの文化的行事が所を得  
ない爲に流會となり或いは  
設備不完全な場所を使用す  
る事によつて生ずる経費の  
増大は市民經濟負擔を増し  
物心兩面から市民は重大な  
脅威をこうむつてゐる。即  
ち公會堂は今日設備と場所  
の点で市の集會場として大  
きく評價されてゐる。加う  
るに敗戦後の文化施設と建築  
による代替案の不足  
は公會堂を目指して文化の殿  
堂と言はるゝ到り。公會堂

犯罪をする  
労動者

犯罪をする  
労動者

の面の人々は生  
活に困難してゐる。労動者  
は特にそうであらう。一日  
働いても其の日の暮すべく  
最低限度の生活も出来ずし  
い様に想はれる。今度の税  
金に納め様にも納められ  
ず、日に日にむけて來るた  
はかるために、常に労資が

さきに本欄で指摘した如く  
平市公會堂が市役所に占領さ  
れてゐる爲に生ずる市民の  
損失はばく大なものがある  
多くの文化的行事が所を得  
ない爲に流會となり或いは  
設備不完全な場所を使用す  
る事によつて生ずる経費の  
増大は市民經濟負擔を増し  
物心兩面から市民は重大な  
脅威をこうむつてゐる。即  
ち公會堂は今日設備と場所  
の点で市の集會場として大  
きく評價されてゐる。加う  
るに敗戦後の文化施設と建築  
による代替案の不足  
は公會堂を目指して文化の殿  
堂と言はるゝ到り。公會堂

の山をながむれば  
「ふるさと」さよ  
ふるさとへ来て見れば  
亡き母植し  
梅花ぞかほる

あの山をながむれば  
「ふるさと」さよ  
ふるさとへ来て見れば  
亡き母植し  
梅花ぞかほる

いや違う閣屋はお米風族勤  
労者はサツマイモ民族  
役員最後の御奉公に奮斗?  
▽農業會解散にともなつて  
▽浪江町でストップの殘火  
柄火の用心に御留意下さい

お互に日本人ぢやないか  
いや違う閣屋はお米風族勤  
労者はサツマイモ民族  
役員最後の御奉公に奮斗?  
▽農業會解散にともなつて  
▽浪江町でストップの殘火  
柄火の用心に御留意下さい

投稿を歓迎す  
福島県平市大町八  
勤労タイムス社

二十日より  
『懐のブルース』  
君と別れしあの日あの夜  
想い出もせつない歌姫の  
純愛メロディー

平館  
高峰三枝子  
上原謙  
二十日より  
『昨日消えた男』  
長谷一夫  
山田五十鈴

二十日より  
平東寶  
高峰秀子  
平市外鏡田  
松本醫院

二十四日より  
『マルトモ柴田書店』  
電話二二三二五九七番  
平市鏡田町  
マルトモ食堂

二十四日より  
松村醫院  
福島縣平市白銀町  
電話一〇七番

機械完備  
染物の御用は  
技術本位の  
京屋染工場へ  
平市南町大通り  
電話六九四番

普通である様に思はれる  
けのこ生活もつきはて、如  
一体となつて協調し、労動  
労者の生活を安定せしめ、  
労者の生活を安定せしめ、  
要があると痛切に感するの  
ある。労働者が副業を手  
にしてあたなれば披勞はま  
して明日の生産能率が低下  
する恐るべき事實がある。  
又働いても生活不安定のた  
めに悪事とは知りつゝ犯罪  
を犯す者があると想はれ  
る。日本の再建をなすには  
上げられるものと信する。

どうぞ御利用下さい  
平市南町五〇直龍軒  
理髮部

内性病科  
矢吹醫院  
平市銀座通り  
電話九五八番

マルトモ書店  
電話二二三二五九七番  
平市鏡田町  
マルトモ食堂

福島縣平市白銀町  
電話一〇七番

機械完備  
染物の御用は  
技術本位の  
京屋染工場へ  
平市南町大通り  
電話六九四番

普通である様に思はれる  
けのこ生活もつきはて、如  
一体となつて協調し、労動  
労者の生活を安定せしめ、  
労者の生活を安定せしめ、  
要があると痛切に感するの  
ある。労働者が副業を手  
にしてあたなれば披勞はま  
して明日の生産能率が低下  
する恐るべき事實がある。  
又働いても生活不安定のた  
めに悪事とは知りつゝ犯罪  
を犯す者があると想はれ  
る。日本の再建をなすには  
上げられるものと信する。

どうぞ御利用下さい  
平市南町五〇直龍軒  
理髮部

内性病科  
矢吹醫院  
平市銀座通り  
電話九五八番

マルトモ書店  
電話二二三二五九七番  
平市鏡田町  
マルトモ食堂

福島縣平市白銀町  
電話一〇七番

機械完備  
染物の御用は  
技術本位の  
京屋染工場へ  
平市南町大通り  
電話六九四番